

【2月16日】

衆・本会議 谷公一議員からの質問、大臣答弁

○谷公一君

そして、昨日、民主党の小林千代美議員に対する北海道教職員組合からの裏金疑惑が新たに浮上しました。受け取った裏金は一千万六百万円、四百万円ずつ四回に分けて提供されていたと報じられています。地元紙では、小林氏の選挙は、北教組、北海道教職員組合の丸抱えだったと報じられています。

またまた政治と金をめぐって問題が発覚したわけです。労働組合丸抱えの民主党議員が少なからずいるとは以前からよく言われたことですが、今回は、教職員組合と民主党議員の長年の癒着構造に地検の捜査のメスが入りました。

しかも、今月十二日には、小林千代美議員の選対幹部に対し、札幌地裁で、買収の約束、事前運動の罪で有罪判決まで出ており、文字どおり金まみれです。

選挙のたびに特定の議員を組織的に支援してきたのは北海道だけではありません。今回の事件は氷山の一角にすぎません。子供たちを教える、教育する立場にある教師が裏金づくりをするなど言語道断ではないか。職員組合の裏金づくり、選挙買収について、川端文部科学大臣の所見をぜひお伺いしたいと思います。

○国務大臣（川端達夫君）

谷公一議員にお答えをいたします。

北海道教職員組合の問題につきましては、現在、検察当局によって捜査が進められているところであり、コメントは差し控えたいと思います。

なお、教育現場においては、法に基づいて政治的中立が確保されるべきものと考えており、文部科学省としては、仮に公務員である教職員に違法な活動があれば、教育委員会と連携して、法令にのっとり毅然と対処してまいります。

以上です。